



Kirari

南の風はあったかい

私たちのまちで見つけた
あったかい活動やキラリ人を
ご紹介します。

わたしのまちのキラリ人

つどいの広場 えの木 広場責任者 百岳 有輝子さん



えの木の活動を通じて、
嬉しかったことはありますか？

えの木を通じて、地域全体で子育てを支えていく雰囲気になっているのが嬉しいです。この広場は、連合町内会が運営していることもあり、地域の役員の方々もよくお見えになります。時には、地域の行事に利用者の皆さんを誘ってくださることもありますね。最近のママやパパたちは、町内会がどんなことをしているのかイメージがわからない方も多いみたいですので、実際に行事に参加してみて初めて、地域活動のありがたみを感じてくれるようです。

また、広場を始めて9年が経ちましたが、子育てに悩んでいたママたちが元気になっていく姿や、通っていた子どもたちが成長し、ランドセルを背負って登下校する姿を間近で見ることができるのがとても嬉しいです。



活動が長く続いている秘訣は何ですか？

町内会長をはじめ、地域の皆さんの支えがあるからこそ、活動を続けることができていると感じます。また、立ち上げ当初のスタッフで広場を運営していますが、年齢や経歴に関係なく、対等な立場で何でも言い合える関係性ができていることも秘訣だと思います。



これから地域活動を始めたい方にエールをお願いします。

まずは無理をせず、自分のできることから始めてみてください。また、活動を続けていくうえでは、時には断る勇気も必要ですね。大変なこともあります、最終的には自分のもとに戻ってくると思います。私は、お世話になった地域に恩返しするためにも、これまでの活動で得た経験を次世代につないでいきたいです。

つどいの広場 えの木 (井土ヶ谷地区)

親子の交流などを目的に、横浜市子ども青少年局の補助制度を活用し連合町内会が運営しています。2013年4月に開所し、コロナ禍でも1日に平均15組ほど利用がある人気の広場です。未就学児と保護者が利用することができます。昔ながらの造りの町内会館と、どんな時でも笑顔で迎えてくれるスタッフの皆さんのおかげで、まるで祖父母の家に遊びに来たようなほっとした気分になり、なごやかな雰囲気ですごくすごすることができます。



交流する利用者とスタッフの様子

わたしのまちのキラリ人

道の愛称ネクストコア会議 世話人 堀木 一男さん



地域活動を始めて良かったことは何ですか？

一番良かったことは、仕事とは違う仲間が地域にできたことです。何か活動をする際に協力いただけるので助かります。また、活動を通じて、地域の子どもたちとのつながりも生まれ、散歩中に声をかけてもらえることが嬉しいです。



活動を始めてから地域の見え方は変わりましたか？

私は定年退職までは自宅と会社を往復するだけで、地域は寝るために帰るようなところでした。しかし、活動を始めてからは、地域のちょっとした変化も目に留まるようになりました。また、活動を通じて、地域の歴史を色々知ることができ、ますます地域に愛着がわくようになりました。最近までは、地域にある旧家の伝統や歴史の資料作りにも協力していました。



これから地域活動を始めたい方にエールをお願いします。

まずは、自分の好きなことから始めてみるのが良いと思います。そして、一緒に活動する仲間ができると、困った時に支えてくれる存在になります。ぜひ、仲間と楽しみながら活動に取り組んでみてください。



道の愛称ネクストコア会議 (南永田山王台地区)

令和元年度から3年度まで、地域の分かりづらい道に愛称をつける活動に取り組んでいた「道の愛称プロジェクト」のメンバーらが、今年度から、南永田山王台連合町内会の広報部隊の位置づけとして活動に取り組んでいます。年数発行する広報誌には、地域の話題や歴史などを掲載。また、つけた愛称を活用した道歩きプログラムをはじめ、子どもから大人までが楽しんで交流できるイベントを開催する予定です。



南永田山王台連合町内会広報誌
道の愛称ネクスト



南区元気な地域づくり補助制度



寺子屋みなみ



地域活動発表会



コーディネーター派遣

わたしのまちのキラリ人

わいわい食堂 代表 西村 末子さん

地域活動を始めたきっかけを教えてください。

父の介護をきっかけにヘルパー3級の資格を取得した後、講習先のケアプラザ職員から「せっかくだから社会参加してみない？」とお誘いを受け、24年前、地元の主婦らで立ち上げた高齢者向けの配食サービス『春一番』がスタートしました。ボランティア活動が続けているうちに、昔と比べて寂しくなったまちのために何かできないかと思うようになりました。そして、数年前、子ども食堂が世間で話題となった時に「これだ!」と思い、『わいわい食堂』を立ち上げました。

活動する上で、何か意識していることはありますか。

私は、地域の人がつながる仕掛けを常に考えながら活動しています。七夕の週には、神社に御協力いただき、地域の皆さんと一緒に鳥居の近くに竹を取りつけ、短冊を書けるスペースを設けたところ、通勤者や部活帰りの中学生なども足を止めてくれました。短冊を書きながらちょっとした会話も生まれていて、地域の人たちがつながる場所になったことが嬉しいです。子ども食堂では、スタッフとお弁当を受け取りに来た子どもたちが触れ合える時間をもう少し増やせないかと思い、景品が貰えるガチャガチャを新たに用意したところ、子どもたちとの会話が弾み大好評でした。

これから地域活動を始めたい方にエールをお願いします。

実際に活動を始めてみると、楽しいですし、やりがいもあります。また、色々な人と出会うことができ、大きな財産になりました。自分を見つめ直す良い機会にもなりますよ。



わいわい食堂 (堀ノ内睦町地区)

子どもたちの居場所づくりを目的に、2016年に有志で立ち上げたグループです。毎月第3土曜日に睦地域ケアプラザで活動しています。コロナの影響で中止が相次ぐなか、「子どもたちのために何かできないか」と考え、会食形式から手作りのお弁当を提供する形に変更して開催しています。

支援者も増え、いただいた食材を使いお弁当を作るなど、わいわい食堂の支援の輪が地域全体に広がっています。



お弁当を作るボランティアの皆さん

わたしのまちのキラリ人

大岡ふれあいサポート運営委員会 会長 飯野 忠明さん

地域活動に携わって良かったことを教えてください。

私は、自治会や民生委員の活動をしていた父の背中を見て育ったこともあり、30代後半から自然と自治会活動に携わるようになりました。地域のお祭りや行事を通じて、多くの方と顔見知りになれたことは私の宝です。また、30年間携わってきた民生委員の活動では、一人暮らしの高齢者のお宅に定期訪問した際に「ありがとう」と感謝の言葉をいただけたのは、活動して良かったと思う瞬間で、活動の励みにもなりました。

大岡ふれあいサポートを始めてみて、どうですか？

始めてから3年が経ちましたが、年々依頼件数が増えており、地域の皆さんに浸透してきていることを実感しています。最近では、草取りや剪定のほかに、外出時の付き添いや見守り、話し相手などの依頼も増えてきており、コロナ禍でも継続して活動していく必要性を感じています。

現在、コロナ禍で集まるのが難しい状況ですが、今後、サポーター同士が親睦を深める機会を設けるなど、サポーター同士のつながりも大切にし、次代の仲間を育てていきたいと思っています。

これから地域活動を始めたい方にエールをお願いします。

興味のある活動があれば、まずは飛び込んでみてはいかがでしょうか。忙しい中でも、できる範囲で大丈夫ですよ、と受け入れてくれる団体も多いと思います。特に、若い世代に参加いただけると、新しい価値観や違った意見に触れることができ、私たちも参考になります。生活に一番身近な自治会町内会の活動から始めてみるのも良いですね。新しい一歩を踏み出すのは大変なことだと思いますので、仲間を誘って始めてみるのもオススメです。



大岡ふれあいサポート (大岡地区)

地区社会福祉協議会の目的でもある困りごとを解決できる地域づくりを目指し、一年の準備期間を経て、2019年5月にスタートした取組です。大岡地区に住む高齢者等からの依頼を受け、草取りや見守り、電球交換や家具移動などのちょっとした困りごとのお手伝いをしています。現在、活動を担うサポーターが20名ほど所属しており、コロナ禍でもできることをできる範囲で活動を継続しています。新たなサポーターも募集中です。



大岡ふれあいサポート活動の様子